

多治見市の環境

(第44号)

2022年度版

(2021年度の環境の状況と施策の実施状況)



多治見市環境キャラクター
地球を「まもる」くん

多治見市



環境と共生するまち 多治見

わたしたち多治見市民は、周囲の緑を自ら育て、市街地を東西に貫流する土岐川に親しみながら、個性ある文化を育んできました。

しかし、今日の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済活動や、物質的な豊かさを求める生活様式は、自然の生態系に影響を及ぼし、わたしたちを取り巻く環境を地球規模で大きく変え、人類の生存さえも危うくしようとしています。わたしたちは、自身も生態系の一員であり、享受できる環境には限りがあるとの認識に立つ必要があります。

今こそわたしたちは、わたしたちの置かれている環境を保全する努力にとどまらず、さらに豊かで快適な環境を創り出し、環境と共生する社会の実現に努めなければなりません。

ここに、すべての市民の参加と協働により、豊かで快適な環境を保全するとともに創出し、将来の世代へと引き継いでいくため、この条例を制定します。

(多治見市環境基本条例より)

■多治見市環境基本条例(全文)は資料編へ



※QRコードを読み込んで
多治見市 HP へアクセス

目 次(本編)

第 1 部 2021 年度の環境の状況と施策の実施状況

第1章 多治見市の概要	1
1. 市勢概要／2. 自然環境	
第2章 環境基本計画の実施状況	
第3次多治見市環境基本計画の体系図	7
第 1 節 三者(市民・事業者・市)の連携協力	8
1. 環境教育・学習の推進 ／ 2. 環境に関する市民・事業活動への支援 ／	
3. 連携協力による体制整備	
第 2 節 地球環境の保全	13
1. 地球温暖化対策の推進 ／ 2. 夏の暑さ対策の推進 ／ 3. 水資源の有効利用	
第 3 節 自然環境の保全	21
1. 森林の保全 ／ 2. 身近な自然環境の保全と創出 ／ 3. 野生動植物の保全	
第 4 節 物質の循環の保全	31
1. ごみの減量化 ／ 2. リユース、リサイクルの促進 ／ 3. 適正なごみの処理	
第 5 節 生活環境の保全	35
1. 公害の防止 ／ 2. 風景の保全と創出 ／ 3. 快適な住環境の整備	

第1章 多治見市の概要

1. 市勢概要

(1) 多治見市の概要(2021年4月1日現在)

◆位置

本市は岐阜県の南南東にあり、愛知県と接しています。県庁所在地の岐阜市からは東南東に約45km、中部圏の中核都市である名古屋市からは北東に約36kmの距離にあります。

周辺地域とは、JR中央本線、JR太多線、中央自動車道、東海環状自動車道、国道19号、国道248号等によって結ばれています。



- ◆人口 108,931人 (男53,074人、女55,857人)
- ◆世帯数 47,338世帯
- ◆人口密度 1,194人／km²
- ◆世帯人口 2.3人／世帯
- ◆面積 91.25km²

(2) 人口・世帯数の推移(各年度の4月1日現在)

人口は2007年をピークとして減少していますが、世帯数は増加しています。

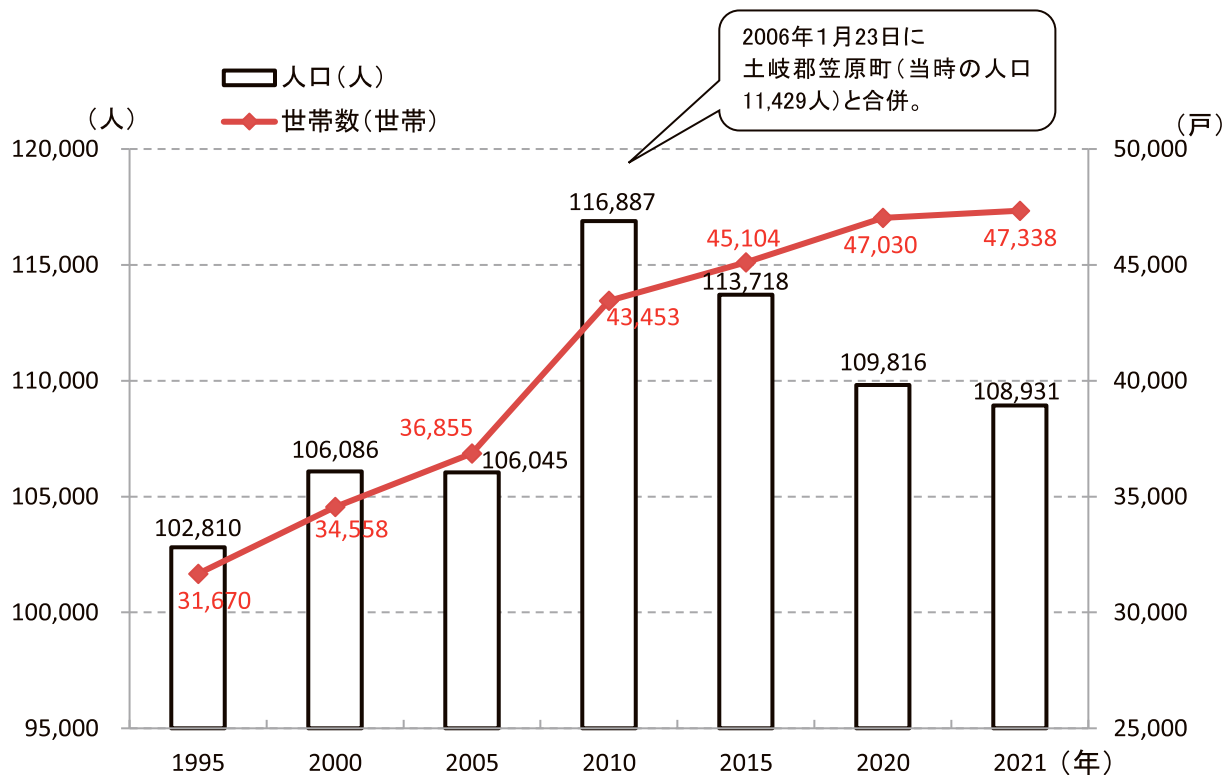


図 1-1: 人口・世帯数の推移

(3) 産業別就業人口

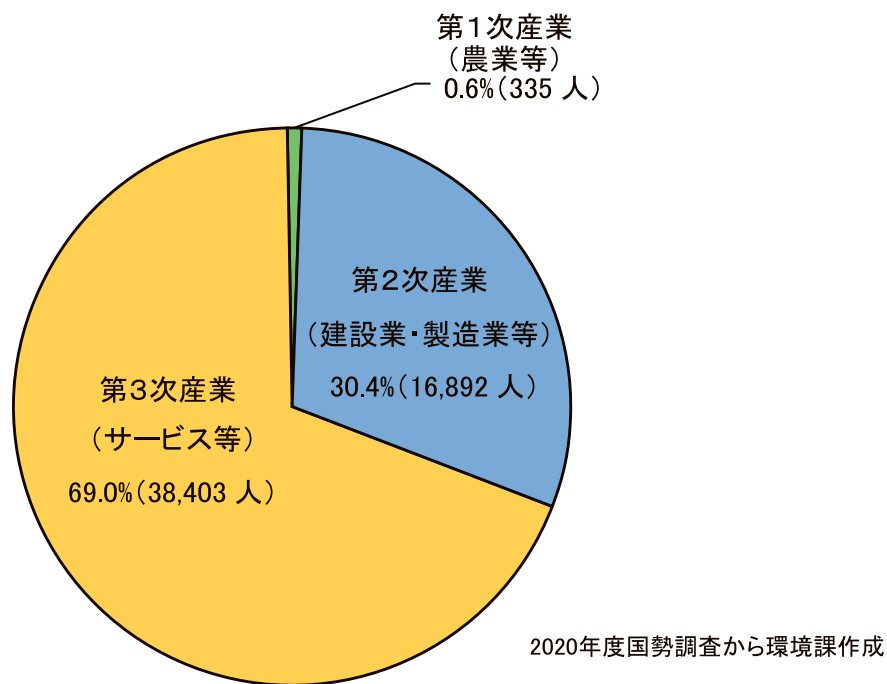


図 1-2: 産業別就業人口

(4) 土地利用状況

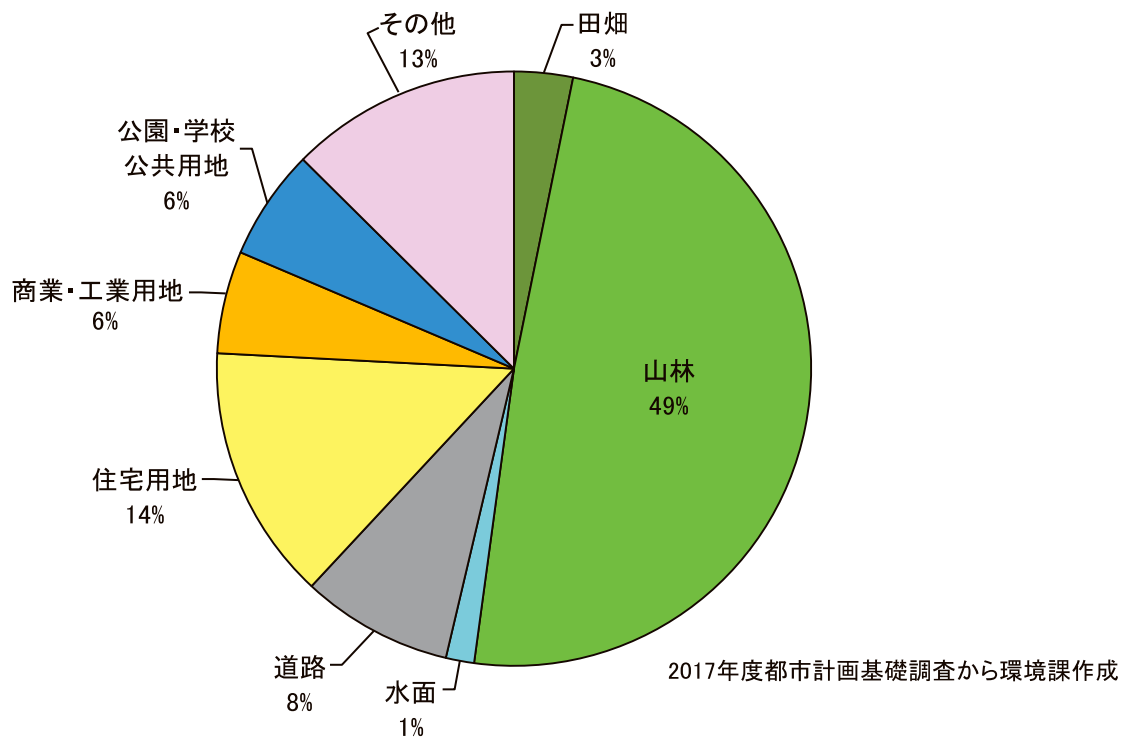


図 1-3: 土地利用状況

(5)環境施策の経緯

表 1-1: 主な環境施策の経緯

年度	主な環境施策
1990年度	緑の育成及び保護に関する条例 制定
1996年度	指定ごみ袋及び粗大ごみシール制 導入
1998年度	環境基本条例 制定
1999年度	環境共生都市宣言 採択 循環型社会システム構想 策定 第1次環境基本計画 策定
2000年度	23分別による家庭ごみ収集 開始 多治見市役所がISO14001認証を取得
2001年度	地域省エネルギービジョン 策定
2002年度	一般廃棄物(ごみ処理)基本計画 策定
2003年度	コークスヘッド式直接熔融炉(新ごみ焼却場)完成 第3回環境首都コンテストで総合1位を獲得
2004年度	多治見市をごみの散らばっていないきれいなまちにする条例 施行 まち美化計画 策定
2005年度	指定ごみ袋 料金改定 地域新エネルギービジョン 策定 地球温暖化対策実行計画 策定
2006年度	笠原町地区でのごみの23分別収集開始
2007年度	多治見市が日本最高気温40.9℃を記録(8月16日) 地球温暖化対策地域推進計画 策定
2008年度	第2次環境基本計画 策定
2009年度	循環型社会システム構想C段階の目標などを見直し 第2次まち美化計画 策定
2010年度	筑波大学計算科学研究センターと高気温対策研究所における連携協定を締結 大畑センター管理型処分場焼却飛灰受入開始 ISO14001認証を返上 独自EMS(環境マネジメントシステム)へ移行 住宅用新エネルギーシステム設置補助金制度導入
2011年度	地球温暖化対策実行計画(事務事業編) 策定 エコカレンダー配布開始
2012年度	多治見市新エネルギービジョン 策定 第2次一般廃棄物(ごみ処理)基本計画 策定 第2次環境基本計画(改訂版) 策定
2013年度	地球温暖化対策実行計画(区域施策編) 策定 多治見市再生可能エネルギーの普及を促進する条例 制定 ボランティア袋を作成(企業等からの協賛金を導入)
2014年度	第3次まち美化計画 策定 生活排水対策推進計画(姫川流域)改訂版 策定
2015年度	ひと涼みアワード2015で「トップランナー賞」受賞
2016年度	第3次多治見市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画(区域施策編) 策定
2017年度	地球温暖化対策実行計画(事務事業編) 策定 グリーン市場拡大のためのグリーン購入大賞(第18回)で「グリーン購入推進自治体特別賞」受賞
2018年度	(株)伊藤園と暑さ対策及び災害時における協力・支援に関する協定を締結 多治見市立地適正化計画 策定
2019年度	第4次まち美化計画 策定
2020年度	第3次多治見市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画(区域施策編) 改訂版 策定

2. 自然環境

(1) 気象

本市では、2007年8月16日に最高気温40.9℃を記録し、日本記録を74年ぶりに更新しました。気象庁が本市で気温の記録を開始した1978年以降の年平均気温及び日最高気温の推移(図1-4、表1-2)を見ると、最高気温の推移は近年上昇傾向にあることが分かります。本市の暑さの原因については、市民団体等により全市的な気温調査を実施するなど継続的に行われています(第2章第2節夏の暑さ対策の推進参照)。

2021年度は、年平均気温は昨年度よりも0.1℃下がり、猛暑日日数も平年より少ない23日でしたが、最高気温は平年より高い40.6℃、最低気温は平年より低い-7.3℃となり、気温差のある年でした。

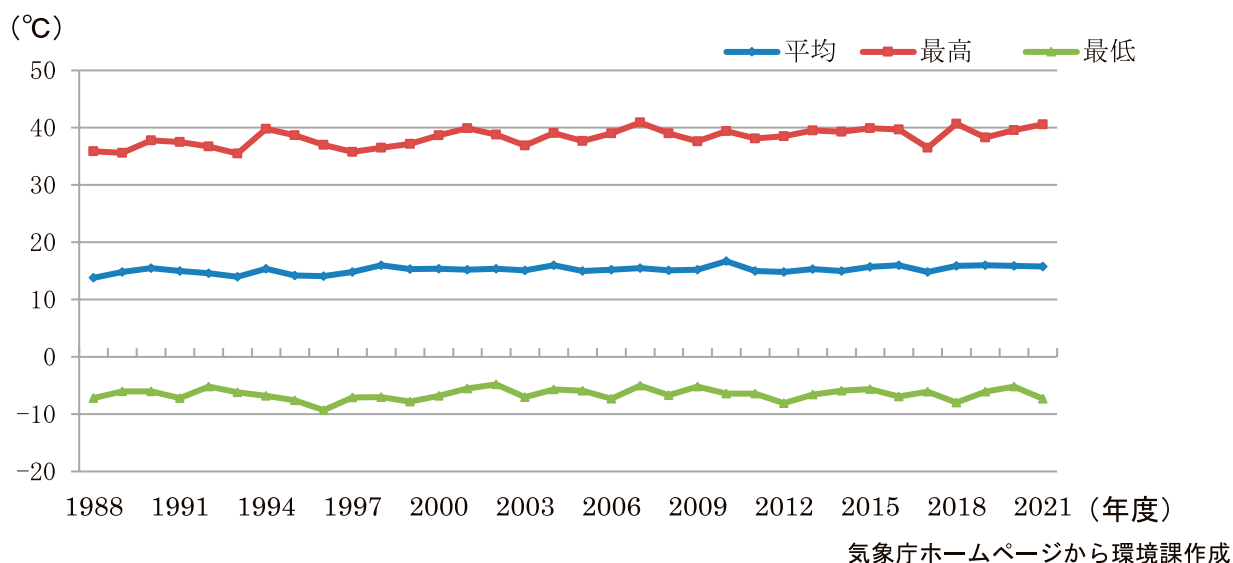


図 1-4: 本市の日最高気温・年平均気温の推移

表 1-2: 1978 年以降の年平均気温及び日最高気温、日最低気温の順位

順位	年平均気温の高い順		順位	日最高気温の高い順		順位	日最低気温の低い順	
	記録開始	1978.11.01		記録開始	1978.11.01		記録開始	1978.11.01
	気温(℃)	記録した年		気温(℃)	記録した日		気温(℃)	記録した日
1位	16.0	2019	1位	40.9	2007.08.16	1位	-9.3	1982.01.30
1位	16.0	2016	2位	40.8	2007.08.17	1位	-9.3	1996.02.03
1位	16.0	2004	3位	40.7	2018.07.23	3位	-9.2	1981.02.28
1位	16.0	1998	3位	40.7	2018.07.18	4位	-8.5	1983.01.23
5位	15.9	2020	5位	40.6	2021.08.08	4位	-8.5	1985.01.31
5位	15.9	2018	6位	40.4	2018.08.06	6位	-8.3	1984.02.08
7位	15.8	2021	7位	40.2	2018.08.02	7位	-8.2	1985.01.18
8位	15.7	2015	8位	39.9	2018.08.03	8位	-8.1	1982.01.18
9位	15.5	2007	8位	39.9	2015.08.01	8位	-8.1	1981.01.31
9位	15.5	1990	8位	39.9	2001.08.01	8位	-8.1	2012.02.03

表1-3: 直近5年の気温・猛暑日・降水量・日照時間

年／項目	最高気温(℃)	猛暑日日数	熱帯夜日数	7月～9月の降水量(mm)	7月～9月の日照時間
2017	36.5	16	5	725.5	511.4
2018	40.7	39	16	581.5	553.1
2019	38.3	30	15	613.5	512.4
2020	39.6	29	10	764.0	456.8
2021	40.6	23	1	926.0	483.8

※猛暑日: 最高気温が35℃以上の日のこと

気象庁ホームページから環境課作成

※熱帯夜: 夕方から翌日の朝までの最低気温が25℃以上になる夜のこと

(2) 地形・河川

本市は、周辺を山地や丘陵地に囲まれた盆地地形です。本市南東部から中央部、北部にかけて土岐川とその支川沿いに平地が形成され、周囲は丘陵地となっています。

本市の河川は、大針町の牧峠を分水嶺に土岐川(庄内川)水系と木曽川水系に分かれています。土岐川は恵那市山岡町の夕立山を水源とする河川で、市の中心部を東西に横切っています。土岐川には高田川、大原川、生田川、笠原川、市之倉川等の支川があり、これらは狭い平地を形成しながら流下し、土岐川に合流しています。木曽川は長野県を水源とする河川で、本市の姫川はその支流にあたります。

また、小規模なため池が市の西部を中心に点在しています。これらのうち最も大きなため池は御大典池で、赤坂町の水田のかんがいに利用されています。



出典 中部地方整備局ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/kasen.htm>

図 1-5: 中部地方の主な河川

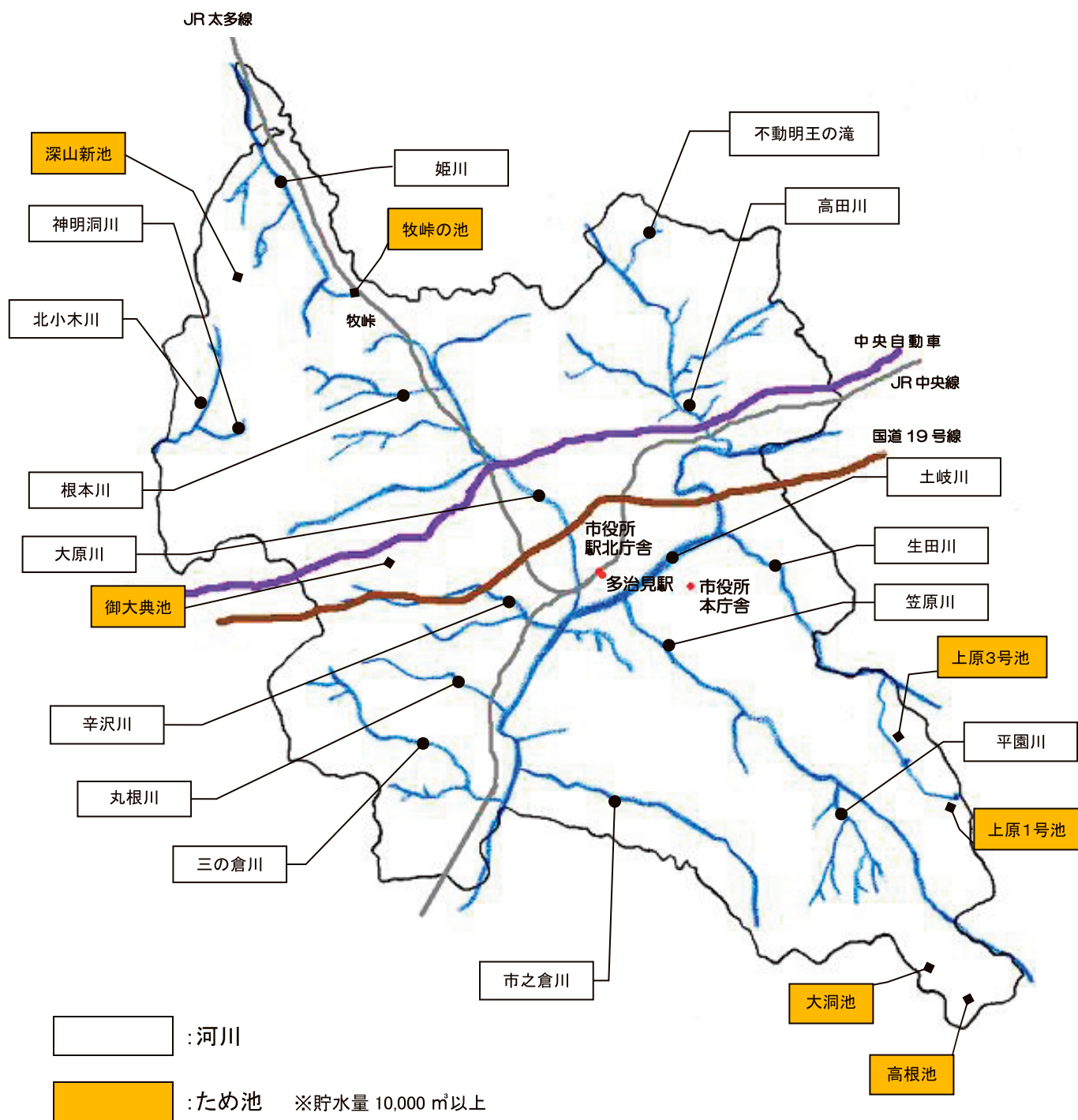


図 1-6: 市内の主な河川とため池



■市内河川の水質については 資料編 9 ページへ